

植物紹介 —ミシマサイコ—



葉は線形～広線形で互生



茎は直立



黄色い小花で複数花序を頂生

学名：*Bupleurum falcatum*

科名：シソ科

属名：ミシマサイコ属

生薬：サイコ(柴胡)

薬用部位：根

主要成分：サイコサポニン A, C, D, E

薬効：抗炎症、解熱、鎮痛、利尿など

慢性肝炎、慢性腎炎、小児腺病質、代謝障害などに用いられる。

処方：小柴胡湯、大柴胡湯、柴胡桂枝湯、加味逍遙散など

山野に自生し、各地に植栽されている多年草で、山地は中国、韓国、日本(宮崎、鹿児島など)。江戸時代、東海道の三島の宿に投宿する旅人は、柴胡という薬を買うことがなわしとなっており、三島周辺から出荷されたサイコの品質が高かったため、ミシマサイコと呼ばれるようになった。

学名の *Bupleurum* はギリシャ語で「牡牛の肋骨」を、*falcatum* はラテン語で「鎌形(葉型)」を意味する。

野生のミシマサイコは乱獲等により減少し、宮崎や鹿児島でわずかに産するが、現在絶滅危惧種に指定されている。

参考文献

生薬単 原島広至 株式会社エヌ・ティ・エス

カラーグラフィック薬用植物 北中進他 廣川書店

生薬学 稲垣勲、嶋野武、他 南江堂